

壁の細道 隙間のネットワーク化による寺内町再編

文化遺産保存とは、単体の文化財そのものだけでなく、周辺地域の生活や町並みをも含めて保存することではないだろうか。

寺内町は寺院を共有物とする町組であり、東本願寺と共に歴史を歩んできた。しかし、文化遺産として防災対策がとられてきた東本願寺に対し、寺内町は木造建築物密集地域として、火災や地震に対する脆弱性を孕んだまま存在し続けている。

寺内町の防災能力を向上させ、街の魅力を引き出す歴史「都市」防災モデルプランの提案を行う。

1. 寺内町について

この地域は木造建築密集地域であり、旗竿地状の接道幅の短い敷地が数多くある。このような木造密集地域では、防災上有効な空地をとることは難しいとされてきた。京都は古くから都市火災が多発する地域であり、京町家は奥庭や蔵によって延焼を防いできた。しかしこれらは周囲を囲われた所有空間でしかない。

寺内町は、東本願寺の門前町として古くから仏具店や参拝者の宿坊として賑わってきた。これらの商店は、東本願寺への仏具の製造、卸業としてだけでなく、京都市における仏具街として市民にも認知されている。しかし仏具は、購入時の選択基準が分かりにくく、市民にとって敷居の高い商店になってしまっている。伝統工芸品である京仏具製造技術は、京都における重要な文化財であり、社会に対し積極的発信をすべきである。

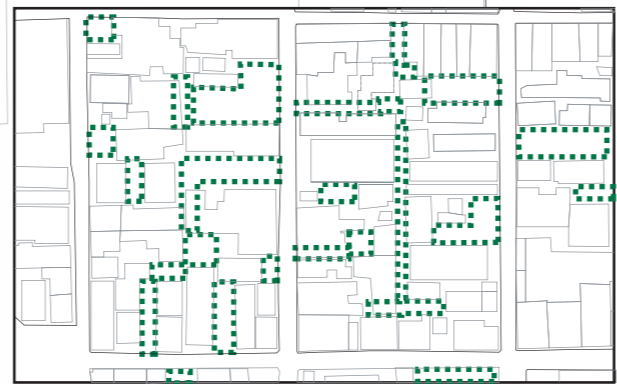
これらの既存固有空地を公共へ開放することで、町全体として防災上有効な線的・面的外部空間を確保することが可能となる。また、それらは災害時の避難経路としてだけでなく、新たな観光、地域コミュニティの起点として日常を豊かなものに変えていく。



2. 隙間のネットワーク化

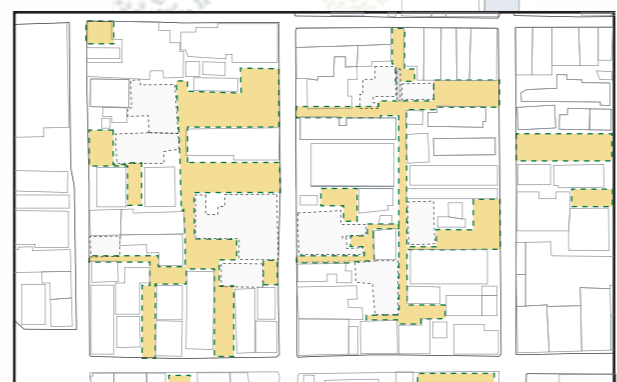
活性可能空間の抽出

市街化に伴い取り残された空地、既存駐車場及び、町家内の通り庭や奥庭、寺社の庭を抽出する。



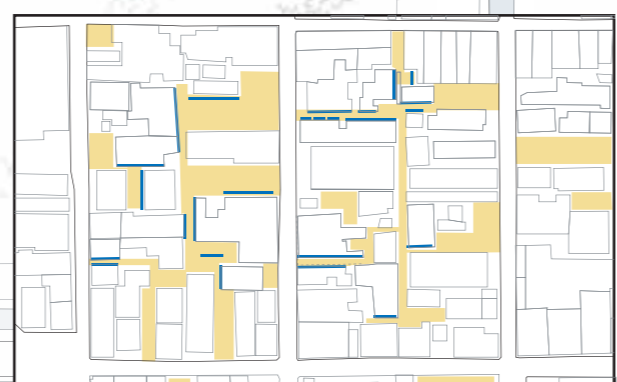
抽出した空間の結合

抽出した空間を既存路地を利用しながらつないでいく。このとき、点在する小さな空間をつなぐ為に、一部の建物に減築や外壁の強化を行う。



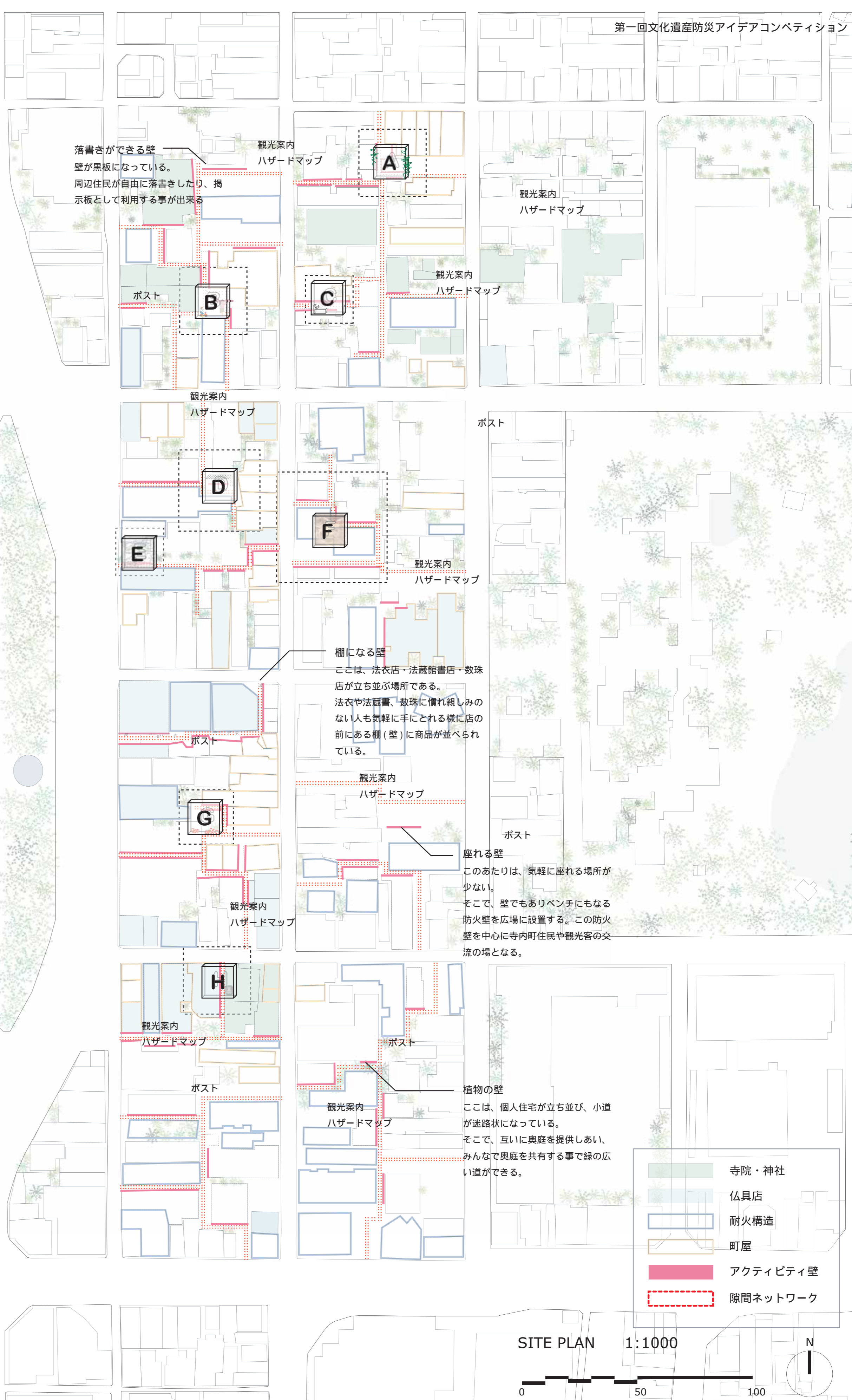
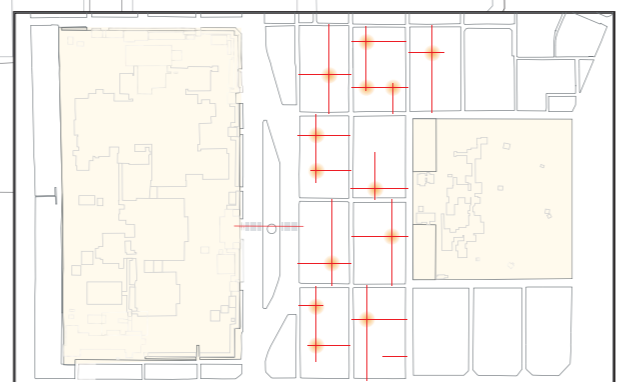
アクティビティ壁の挿入

抽出した空間に、様々なアクティビティを誘発する壁を挿入する。この壁は、耐火壁として災害時の避難経路をより安全なものにするだけでなく、店先の広告や観光用経路案内、個人の庭や住民のテラス等、寺内町に不足している機能が付加されている。



隙間ネットワーク

形成された線的・面的外部空間は、寺内町に縦・横の新たな人の流れを生み出す。これによって二方向避難が可能となり、地域の防災力が向上する。また、縦軸は寺内町住民にとっての生活空間となり、横軸は東本願寺と渉成園をつなぐ観光用経路となる。



A 緑の壁

道に沿って植物を植え、家が多くなるので、そこで期間を活用して植物を育てる空間にする。

ボラスコンクリート、培養土を金網の枠で壁にする。ツタ類の植栽で緑の壁となる。

耐火ガラスに塗装した壁のプランター、住民のガーデニングに利用されながら、植物が育つと緑の壁となる。

B 壁と遊ぶ

R Cの壁から木を構ったオブジェクトが突き出ている。そのでっばりに手足をひっかけたりよ登ることができる。

壁を触るだけじゃなく、奥庭のかわりに、くぼかれたR Cの壁、手足をひっかけたり、のぞきこんだりできる。

C 倉庫

東本願寺改修に伴い、明治瓦を骨材とした瓦コンクリートを用いる。また、壁表面に腐蝕をため込むことで、物理的に強い壁や面が空間に変化を与える。

腐蝕：縦横面に凹凸で隙間を描く。直視では確認できないが、光を反射させることで、反射のした部分に浮かれた面が現れる。仏具などに用いられる。

D お茶屋

座る事ができる壁
壁の中に座る事ができる。壁に機能もたせる事で、壁が生活の一部となる。

竹の壁
竹の壁を塗り分けると小さな広場が作り、賑わっている様子が見えたりする。この広場ではお茶屋で買ったものや高島持子よみだものや歌へながら話をすることが出来る。観光用の絵巻と寺内町の緑の文化が広場があるので様々な人が楽しむ空間となる。

座る事ができる壁
コンクリート打ち出し、ラックコート塗布、コンクリート t=400mm

E 観光案内 ハザードマップ

観光案内を自所に設置することで、観光しやすくする。災害時は、壁ガラスによってハザードマップが夜間でも見やすくなる。

日光ファイアライト 5mm
遮断防止フィルム
日光ファイアライトを用いることで、火災や夜間は、遮断防止フィルムを透過し、夜間でも見やすくなる。

F 扇子屋

扇子作り体験できる壁
壁に大きな窓や作業台を付ける事で職人が扇子を作っているところや、一般の人が扇子作りの体験をしているところを見ることが出来る。

扇絵の壁
シロクロン塗装 ガラス t=20mm
フィルム t=15mm
ガラス t=20mm

扇子作り体験できる壁
モルタル補修の上、塗装仕上げ
シロクロン t=20mm
フィルム t=15mm
ガラス t=20mm
下地板 t=90mm

G ポスト

ポストを点在させることで、観光客や住民が利用しやすくなる。また、壁に手摺を用いることで、伝統技術を押しやすくなる。また、壁の防水性、耐火性を向上させる。2口の分譲を、エアーと市内近距離利用の分類にし、使いやすくする。

H 仏具屋

瓦コンクリートをくり抜いた縁起の受け、仏具のひたつてある縁起の「トウワド」として機能する。